

「天国の館」にて

——久しぶりのハワイ——

マカデミアナッツ園への投資契約の交渉が終わった後、わたしと妻はワイキキで骨休めすることにした。日頃、子供たちの世話に忙しい妻の慰労もかね、ホテルはショッピングに便利なハレクラニにした。ハレクラニとは、「天国にふさわしい館」(House Befitting Heaven)を意味するという。ファイブ・スター、ファイブ・ダイヤモンドのホテルである。

娘と息子も連れて来たかったが、さすがに学校を1週間も休ませるのは気がひけた。義父が上京して孫の面倒を見てくれるというので、感謝、感謝。その代わり子供たちに土産をはずもう。最近鏡を気にするようになった娘にはラルフローレンのバッグを、恐竜ファンの息子にはイグアナドンのプラモデルを土産にしよう。

初日、わたしたちは1階のレストラン「オーキッズ」で遅いランチをとった。

「オーキッズ」は、観葉植物と南国の花で満ちあふれている。ハイビスカス、トーチ・ジンジャー、シンビジウムの花が、鬱金、真紅、紅紫の鮮やかな色をまき散らす。テーブルの上の一輪挿しには、白と薄紫色のプルメリアの花が2枝かすかに甘く匂っている。

わたしはとりあえずコーヒーとグアバジュース、妻はティーとグレープフルーツをオーダーし、バイキングを取りに行く。

ビーフ、ポーク、スパゲッティ、クリスピー・ベーコン、スモークサーモンなどの洋風料理、マグロ、赤貝の刺身、いなり、海老しゅうまい、海苔巻きずしなどの和風味、それにカルア・ピッグ、ポイ、ロミロミ・サーモン（生鮭とトマト、オニオンを添えたもの）、マグロのポキ（マグロにナッツ油をまぶし、醤油味を加えたもの）などのハワイ伝統料理が並んでいる。サラダはアルファルファにビーンサラダ。パンはガーリック・パン、マフィン、ブルーベリー入りマフィンなど。

わたしはマグロの刺身、しゅうまい、アルファルファ、それにガーリック・パンを大皿に取り分ける。妻はクリスピー・ベーコン、ズッキーニー・サラダの辛子和え、ブルーベリー入りヨーグルト。どの料理も塩分が少なく、新鮮な素材の味をそのまま楽しめる。

さっきの小豚の丸焼を見た？豚の顔がこっちを向いているんだもの。気味が悪い。

あれはカルア・ピッグといって伝統的な宴会料理だよ。砂浜に穴を掘って焼いた火山岩をしきつめ、小豚をバナナの葉でくるんで入れるんだ。砂をかぶせて数時

間蒸すらしい。結構おいしいよ。

食後のデザートは、チョコレート、ストロベリー、ウォールナッツ・ケーキ、パイナップル・ケーキなど盛りたくさん。甘いものには目のない妻はどれにしようかと迷いに迷い、結局グァバシロップをかけたコーテッドムースを選ぶ。わたしはスイーツはパス。

ムースの味はどう？

まあ、悪くはないけど今一つなのね。ここの料理はおいしいんだけど、スイーツはもう一歩じゃないかしら。料理とスイーツの両方ともおいしいレストランはめったにないのよ。別の味覚が要求されるんじゃないかしら。

へー、そういうものか。初めて知った。さすがに料理の大家のいうことはひと味違う。

と、妻に少しよいしょ。

こんなとりとめのない会話ができるのも、久方ぶり。ハーブとフルートの奏者が「虹の彼方に」を演奏している。英語、日本語、ドイツ語、フランス語が飛び交い人々は軽い躁状態にある。一生こんな風にたわいのない会話を交わし、安穏な日々を過ごせればこれに越したことはないのだが。まあ、つかの間の幸せに心から感謝しよう。

——豊饒な時な流れ——

食後しばらくして、わたしたちはホテルのプールで日光浴を楽しんだ。

視界を遮るものもなく、目の前にいっぱいワイキキの浜辺が広がり、左遠方にダイヤモンド・ヘッドが見える。

半ズボン姿の白髪の老夫婦が、浜辺をそぞろ歩きで通り過ぎて行く。セレステブルーの空に、ココナッツの高木の青緑の葉がわずかに揺らいでいる。遠浅の浜辺に白波が砕け散り、沖合には白と緑の帆のヨットが2艘ゆっくり進んでいる。紺碧の空を、一条の飛行機雲を残してジェット機がはすかいに横切って行く。地上から大空まで光の粒子に満ちあふれ、あらゆる存在が多彩な色を振りまく。

プールは濃紺のタイル敷きで、底にはサファイアブルーのカトレアの花模様が大きく描かれている。カトレアの花に向かって潜っていくと、金色の日の光が水中に煌めき、大輪の花がゆらゆらと揺れる。息継ぎに顔を上げると、ココナッツの高木と抜けるような青空が一瞬目を横切る。微風が吹き抜け、水面に光が乱反射して小さな漣がたつ。わたしの心もそれにつれて、ゆらゆらとたゆたう。時が、ゆったりとゆったりと流れていく。

3、4才の姉弟が、小さな浮輪をつけて水遊びに興じている。

お姉ちゃん、追っかけっこしようよ。

うん……。もういいよ。

弟は真剣に逃げるが、姉はたちまち追いついてしまった。2人は小犬のようにじゃれて、笑い興じる。

プールから上がって、ストロベリーとバナナのミルクシェークを頼むと、香りの良いミントの葉が添えられている。葉を一口噛むと、強い香りが口の中に広がる。

植え込みには、真紅のブーゲンビリア、桃色のヘリコニア、紅藤紫のオーキッズ、鬱金色のバード・オブ・パラダイス（極楽鳥花）が咲き誇る。

ふと植え込みの向こうを歩いていく男の横顔が、知人のイギリス人に似ている。よくよく見ると彼に間違いない。

失礼。サロモンさん？

ヤベさん！

こんなところで会うとは、これは思いがけない。バケーションですか？

ヤベさんこそバケーションですか？

彼は在日イギリス系企業の日本法人の社長である。わたしは長年この会社の社外取締役をしているし、顧問弁護士でもある。最近はお互い忙しく、役員会で顔を合わせるくらい。まさかこんなところで出会うとは思わなかった。彼は休みを取ってマウイ島のホテルに滞在していたのだが、明日日本に帰るので今晚はここに1泊するのだという。日本人の奥さんも一緒だということで、今晚は夕食を一緒にすることにする。

じゃあレストランの方はわたしが手配しておきますから、夜にロビーで会いましょう。

わたしと妻は再びプールサイドのイスに座ってリラックスする。オゾンを含んだ新鮮な空気、抜けるような高い空、ココナッツの高木、白亜のホテル。ゆっくりと豊饒な一時が流れる。本当に「天国の館」だ。このひと時が永遠に続いてほしいものだが、至高の悦楽は一瞬にすぎない。とすれば、この瞬間を頭を真っ白にして過ごす以上の何が望めようか。このひと時を存分に味わい尽くそう。陽の光に当たっていると、時差のせいか無性に眠くなってきた。部屋に帰ってひと寝入りするか……。

——ユタ州での訴訟勃発——

部屋に戻ると、メッセージが入っている。途端に眠気は一気に吹き飛んでしまった。

クライアント（日本企業）の W 部長より電話がありました。至急自宅にコール・バックしてほしいとのこと。自宅の電話番号は……。

わたしの精神は張りつめ、高速回転を始める。弛緩した気分は一変し、 α 波の世界から β 波の世界へと引き戻される。日本では朝の 6 時。何が起きたのか？早速 W 部長の自宅に電話をするが、なかなか出ないので苛々した後、やっと通ずる。

ああ、矢部さん。せっかくお休み中のところすみませんが、緊急な用件なので。実はユタ州のソルトレイクで訴訟を起こされたらしいんです。

訴訟？どんな訴訟ですか？

うちの製品を使ったユーザーが怪我をしたらしいんですが、詳細はわかりません。島村弁護士には昨夜相談しましたが、矢部さんにもお知らせしておいた方がよいと思って。

島村弁護士なら対米訴訟を経験しているので大丈夫です。とりあえず、ユタ州で優秀なアメリカの弁護士を探さなければならないが……。とにかく事実関係を調査してください。初動調査はプロジェクトチームをつくり徹底的にやって下さい。

訴訟の将来を左右しますから。

やっかいなことになった。アメリカで訴訟を起こされると、通常3週間以内に答弁書を出さなければならない。ニューヨークやカリフォルニアならまだしも、ユタ州には知り合いの弁護士はいない。

昨夜から島村弁護士は、事実関係の把握とユタ州の弁護士を捜すため奮闘している筈。やれやれ、安穩の日の筈が今日の午後はビジネス一色になってしまいそうだ。買い物を楽しみにしている妻には悪いが、一人で行ってもらおう。

部屋で待機しているうちにやがて東京の事務所も始まり、島村弁護士から電話が入る。クライアントのロサンゼルスの子会社が相手方と交渉していたらしいが、相手は交渉が進まないで焦れて、子会社だけでなく東京本社も被告として訴えたいらしい。

子会社宛に送られてきた訴状はもう入手しました。すぐそちら宛にお送りします。ロスやニューヨークの弁護士にユタ州の弁護士を紹介してくれるようすでにファックスを入れました。お休みのところすみませんが、クライアントも心配していますので、よろしくお願いいたします。

ユタ州なら西海岸の事務所に現地の弁護士を探してもらうといい。ロサンゼルスのピーター、サンフランシスコのポールにも問い合わせて PL（製造物責任）訴訟に強い評判の良い弁護士を探してくれ。

間もなく訴状と社内の関連資料が続々とファックスで送られてきた。訴状だけで50ページ。とりあえず今後の方針を立てるためなので精読はせず、要点だけ流し読みをする。

夢中で資料を読んでいるうち、いつのまにか夕闇の帳が降りていた。つい時を過ぎてしまった。その日、わたしが働いた時間は合計4.2時間。働いた時間をタイム・シート（6分刻みの業務報告）につけ、わたしの1時間当たりの報酬額を掛けてクライアントに請求する。

- | | |
|--------------------------|-----|
| ①W部長とのユタ州のPL訴訟の件で電話打ち合わせ | 0.6 |
| ②島村弁護士と訴訟対策について電話打ち合わせ | 0.8 |
| ③訴状及び関連資料検討 | 2.8 |

せっかくのバケーションに仕事をするなどヤボの骨頂。しかし、弁護士にとって、訴訟は単に勝つか負けるかではない。死ぬか生きるかの大事。日々の仕事に自分の評判がかかると

あつては、いつも気を抜けない。それが自営業の宿命と割り切るほかはない。

仕事も終わりふたたび休暇モード。夕日が水平線の果てに沈み、茜色の残光がダイヤモンド・ヘッドを照し、空気までが赤光色に染め尽される。水平線から天空にかけて、空の色は茜色から朱色、青灰色、さらにダークブルーから漆黒へと微妙な変化を見せる。

ホテルの庭に目を移すと、ココナッツの木のシルエットが浜風に揺れ、幻灯画を見ているよう……。かがり火に照らされ、レストランの一角だけが、幼年時代への郷愁をかりたてる橙色に染まっている。

プール底の大輪のブルー・カトレアが、サーチライトに浮かび上がり、神秘的にゆらゆらと揺れている。まるで、宝石箱をひっくり返したような夜だ。

さてと、サロモン夫妻との夕餉が待っている。